



赤ちゃん協議会 産科医WG

(周産期医療の提供体制を検討する協議会)

令和4年7月19日
石川県健康福祉部



本日の議事内容

1. 部長挨拶

2. 議題

(1) 座長の指名

(2) 第1回赤ちゃん協議会(R4.7.5)の議事概要(資料1-1~1-2)

(3) 石川県の産科医師数や勤務環境の現状(資料2-1~2-3)

(4) 産婦人科疾患に対する治療内容別入院患者数(資料2-4)

(5) 本日の議論いただきたいこと(資料3)

① 産科医の現状について(診療実績・勤務環境)

② 安全・安心な分娩について

③ 各病院の機能分化・連携について

第1回 赤ちゃん協議会

(周産期医療の提供体制を検討する協議会)

令和4年7月5日
石川県健康福祉部



本日の議事内容

1. 知事挨拶
2. 赤ちゃん協議会について
 - (1) 主なステークホルダーについて
 - (2) 石川県の周産期の現状
 - (3) 赤ちゃん協議会の進め方

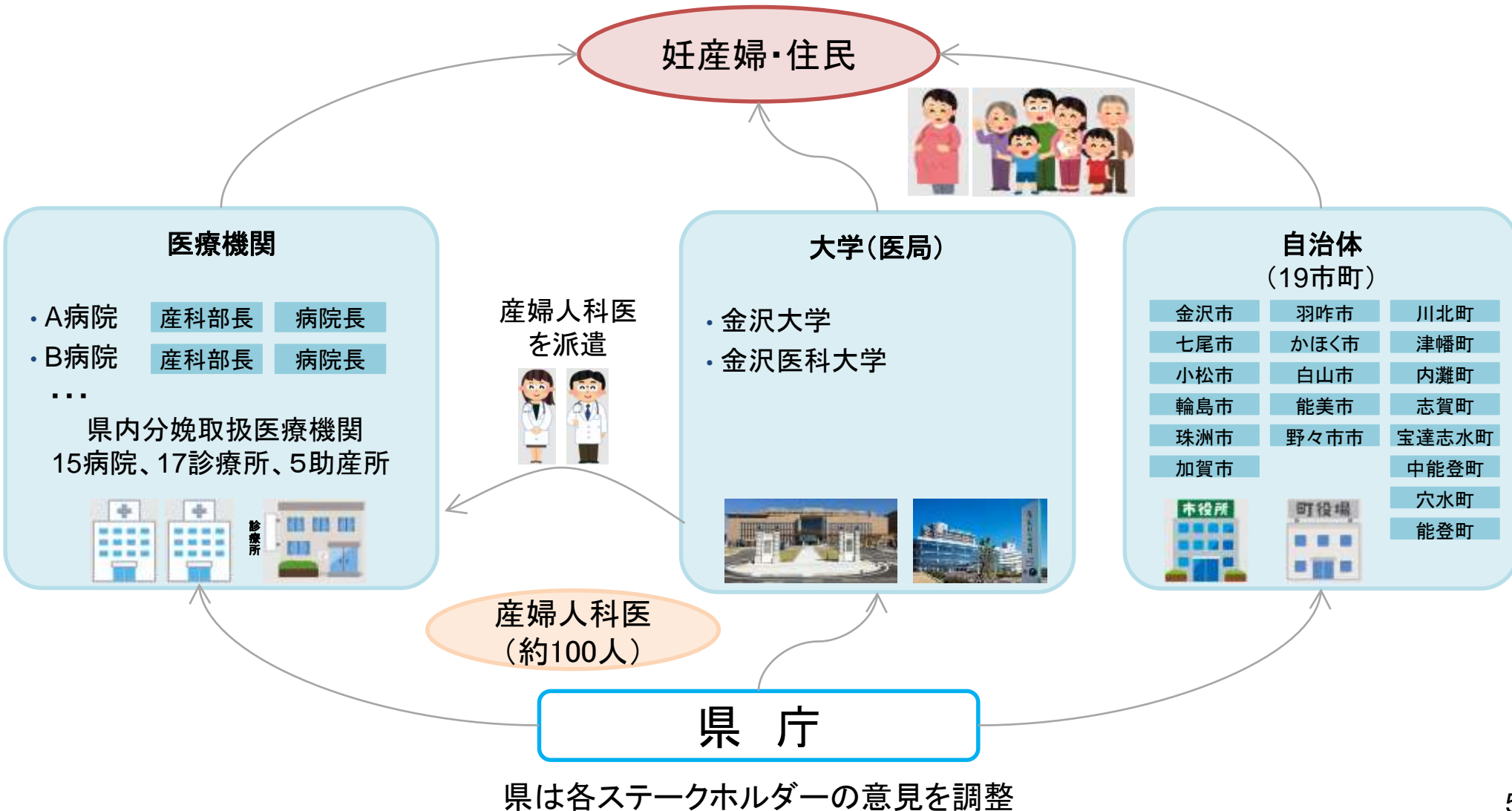
【報道退出】

3. 意見交換
 - 金沢大学
 - 金沢医科大学
 - 石川県立中央病院
 - 市町

(1) 主なステークホルダーについて

周産期医療にかかわるステークホルダー

- 周産期医療には、妊産婦と産科医だけでなく、医療機関、大学(医局)、自治体など、さまざまなステークホルダーが関係します



周産期医療にかかわる各ステークホルダーの考え

○ 周産期医療を議論する際に、各ステークホルダーの立ち位置(それぞれがどのような関心事や立場のもとに動いているか)を理解する必要があります。

1 産科医
(産婦人科部長)

安全な分娩を
行いたい!

- そのためには
- ・ 人員体制も必要だし
 - ・ 自身のワークライフバランス
 - ・ 小児科、麻酔科との協力体制
 - ・ 必要な医療機器 ..
等を考えねばならない



2 病院
(病院長・事務長)

地域に信頼される
病院を目指したい!

- そのためには
- ・ 病院経営(収支)
 - ・ 医療の安全性
 - ・ 医局からの医師派遣
 - ・ 職員の雇用 ..
等を考えねばならない



3 大学
(教授・医局長)

臨床・研究・教育を
通じて地域に
貢献したい!

- そのためには
- ・ まず、大学本院の業務をまわす必要
 - ・ 限られた医局員の数で派遣を行い
 - ・ 医局員のスキルアップ、ライフスタイル、モチベーション ..
等を考えねばならない



4 行政
(首長、市役所・町役場)

住民に安心・安全な
医療を提供したい!

- そのためには
- ・ 「安全性」と「利便性」のバランス
 - ・ 自治体内での予算の確保
 - ・ 住民への説明責任
 - ・ 自市町で実施可能な独自事業 ..
等を考えねばならない



(2) 石川県の周産期の現状

石川県の分娩施設・分娩数・産科医数（全体の概況）

- 年間約7,800件の分娩が、37施設（15病院、17診療所、5助産所）で行われている
- 分娩の場所は、約1/3が病院、約2/3が診療所である（助産所は少数）
- 常勤医として働く産婦人科医は105人であり、うち82人（病院59人、診療所23人）が分娩を取扱う

	分娩施設(数)	分娩数	産婦人科医師(常勤)	
			うち、分娩を取扱う医師(常勤)	
病院	15	2,616 (33.5%)	64	59
診療所	17	5,163 (66.1%)	41	23
助産所	5	35 (0.4%)		
合計	37	7,814	105	82

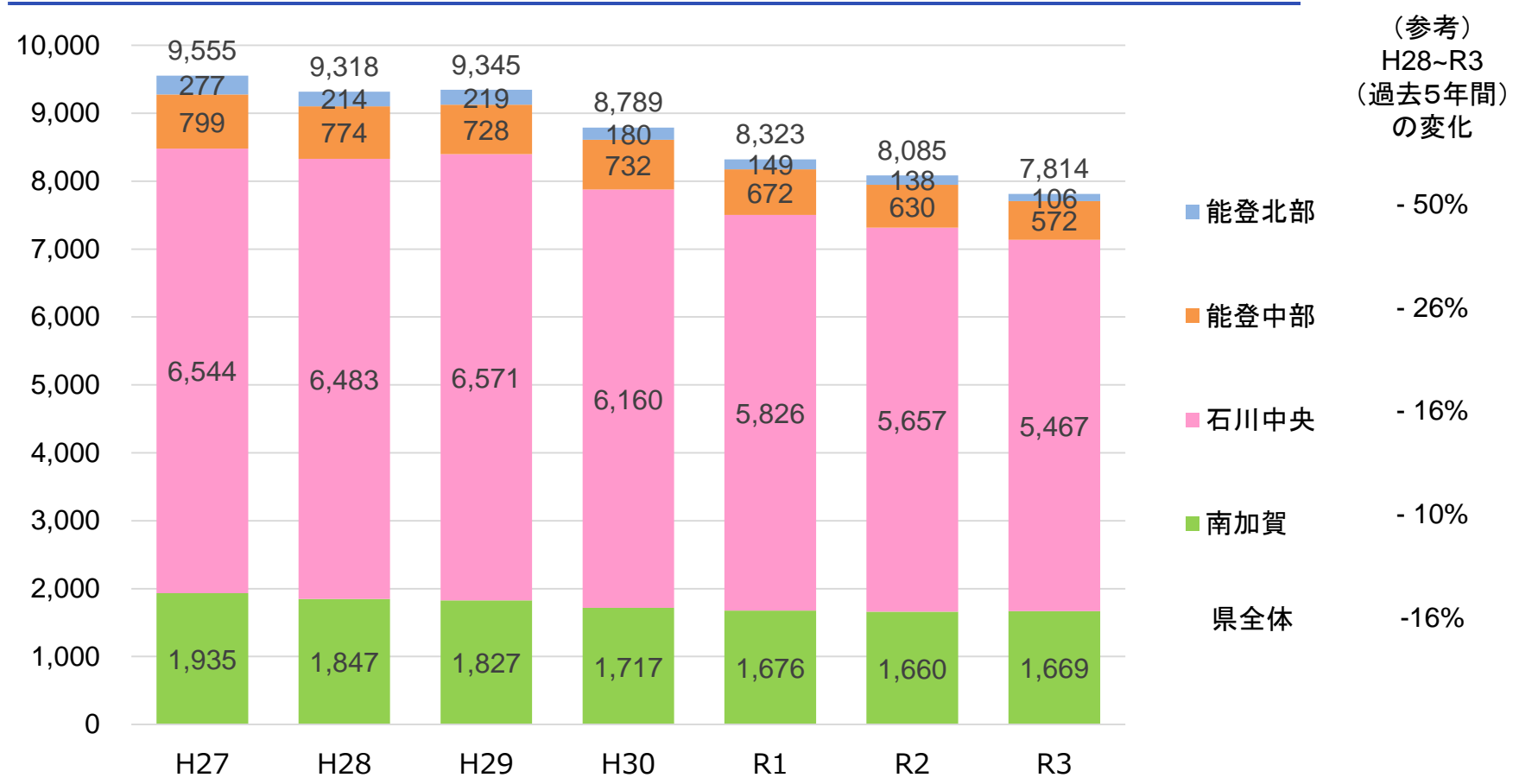
(出典) 石川県地域医療推進室調べ

(分娩施設数・分娩数: R3年度、産科医数: R4.4.1現在)

分娩数の年次推移

○ 令和3年の分娩数は、約7,800件である。
 ○ 分娩数が減少しており、特に能登北部での減少率が大い

分娩数(病院、診療所、助産所の合計)

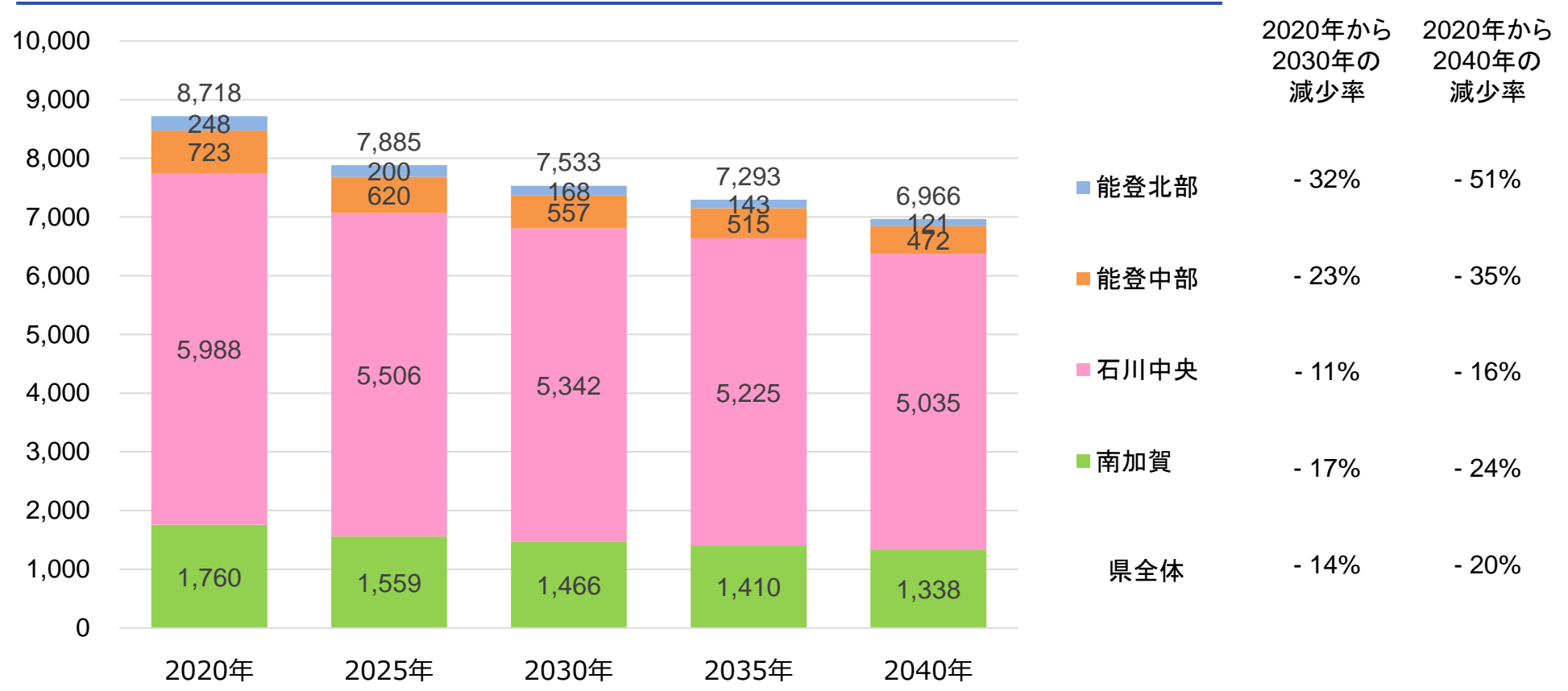


(出典)石川県地域医療推進室調べ

出生数の将来予測

○ 今後も人口動態の変化により、出生数の減少が予想される
 (参考) 出生数: 市町村が受理した「出生届」の数
 分娩数: 県が医療機関に照会して把握した「分娩」の数

出生数の予測



(参考) 国立社会保障・人口問題研究所
 ※出生数は、年齢5歳階級別人口の見通しから、0～4歳の階級を5で割って算出

県内の分娩施設(病院)及び分娩数・産科医数

- 各病院の分娩件数や医師数にばらつきがある(分娩件数や医師が少ない病院もある)
- 地理的には、石川中央医療圏に多くの分娩施設(病院)が集まっている

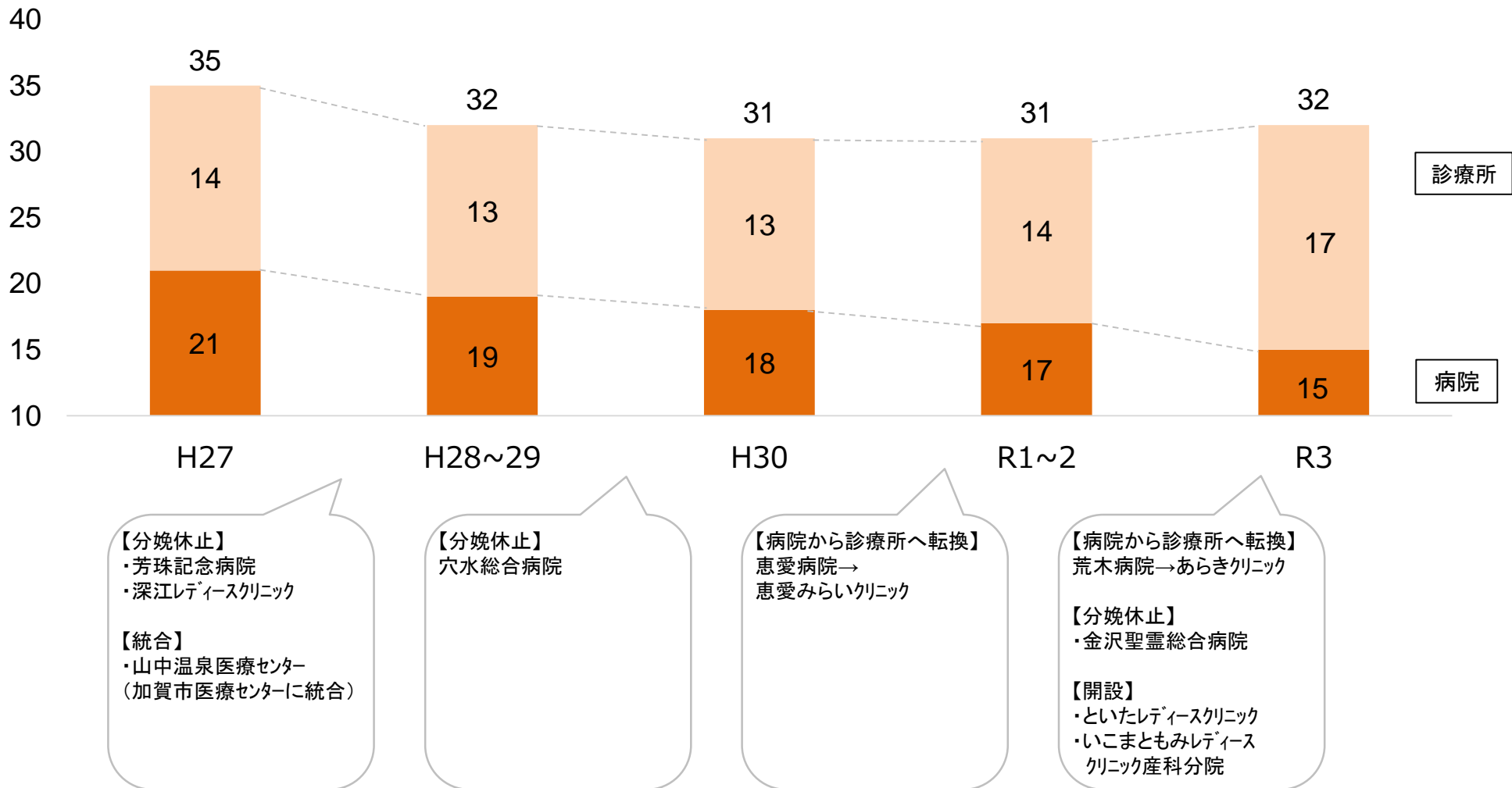
各病院の分娩数・分娩を取扱う医師数



(出典) 石川県地域医療推進室調べ
(分娩数: R3年度、産科医数: R4.4.1現在)

分娩取扱医療機関数の推移

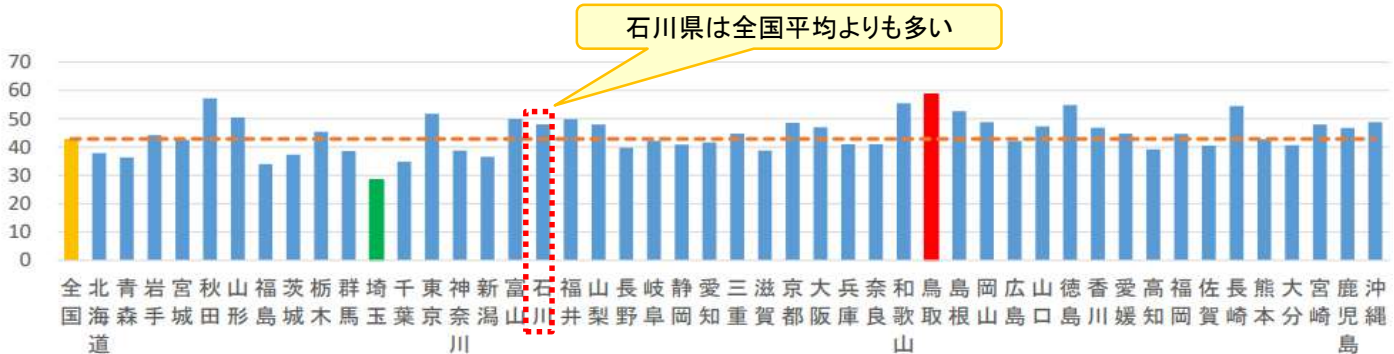
- 分娩数が減少傾向にある中、分娩取扱医療機関数も減少傾向にある
- 具体的には、産婦人科医の高齢化・退職等を契機に分娩を停止する動きや、病院から診療所へ転換する動きがみられる



石川県の産科医数(全国との比較)

- 石川県の産科医数は、人口当たり・分娩数あたりで見ると、全国平均より多い
- 産科医の養成から採用まで十年単位でかかるため、現実的には、当面のあいだ約80人(うち病院勤務 約60名弱)の産科医で、県内の分娩需要に対応せねばならない

①15～49歳女性人口10万人対産婦人科医師数¹⁾



②医師偏在指標²⁾

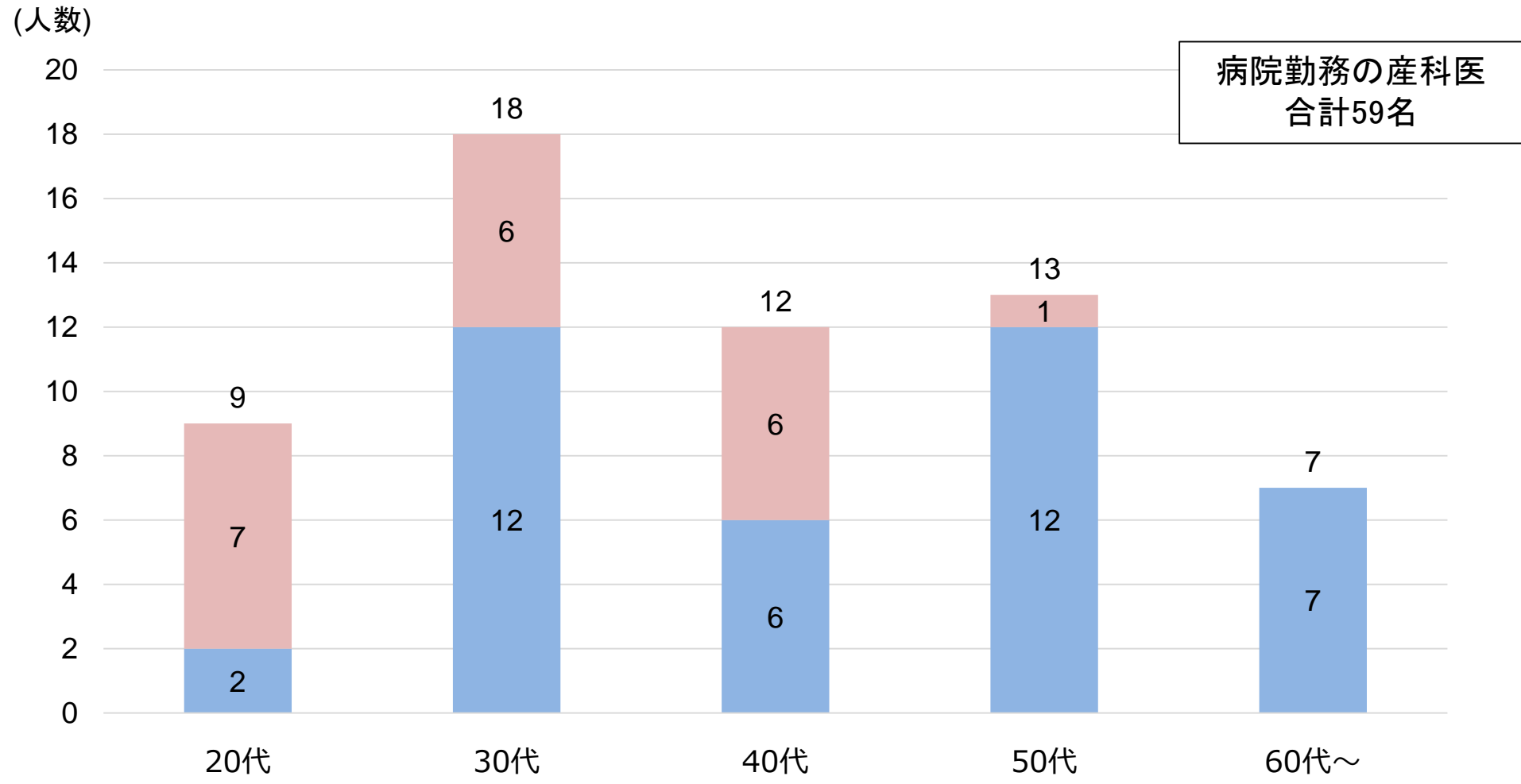
	①標準化 産科・産婦人科 医師数(人)	②分娩件数 (千件)	③産科医師 偏在指標 (①/②)
全国	11,349	888.5	12.8
石川県	109	8.3	13.1
南加賀	13	2.1	6.5
石川中央	84	5.1	16.5
能登中部	9	0.9	9.9
能登北部	3	0.3	10.8

「偏在指標」が大きいほど産科医も多い

(出典)
 1) 厚生労働省 医療従事者の需給に関する検討会 第28回医師需給分科会 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208863_00010.html
 2) 石川県 医師確保計画(令和2年) <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/iryuu/support/ishigairai/documents/02ishikakuhokeikaku.pdf>

病院勤務の産科医師数(男女別・年齢別)

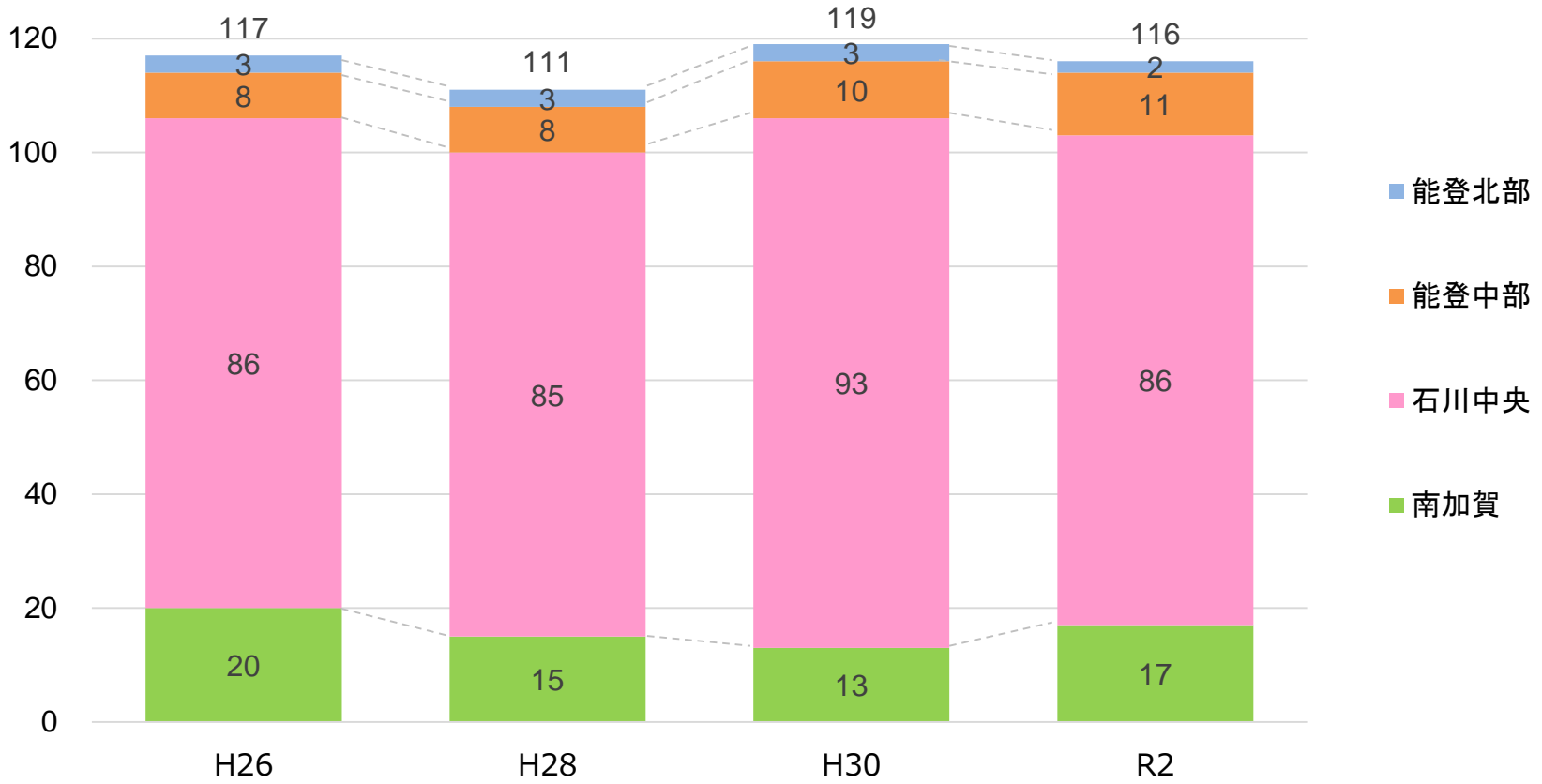
- 病院勤務の産婦人科医のうち、「分娩を取扱う」と回答した者は59名である
- 働き盛りの30-40歳代において、出産・育児により宿直が困難になる等の制約がある医師の割合が多く、現場の不足感が高いのではないかと推測される



(出典)石川県地域医療推進室調べ(R4.4月現在)

産婦人科医師数の年次推移(医療圏ごと)

○ 産婦人科医師数は近年、著しい増減はない

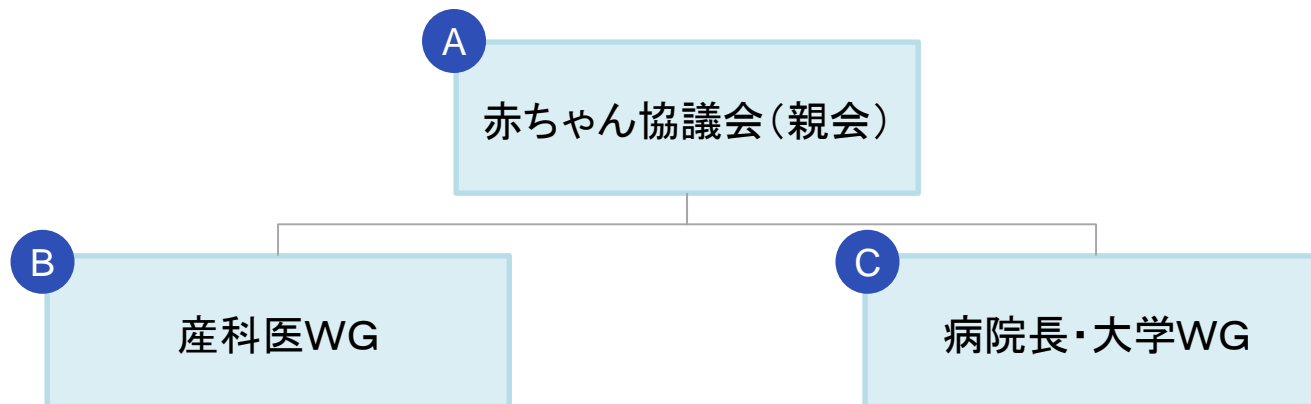


(出典) 医師・歯科医師・薬剤師統計(厚生労働省)

(3) 赤ちゃん協議会の進め方

赤ちゃん協議会の構成

- 赤ちゃん協議会は、それぞれのステークホルダーごとの見解をまとめるために、親会と部会（ワーキンググループ）とわけて検討をすすめていきます



会議体	開催時期	主な参加者	主な議題(案)
A 赤ちゃん協議会 (親会議)	第1回: 7月5日 第2回: 今秋	① 産科医 ② 病院長 ③ 大学 ④ 行政	第1回 ・主なステークホルダーについて ・石川県の周産期の現状 ・赤ちゃん協議会の進め方
B 産科医WG	第1回: 7月中旬	① 産科医	・安全な分娩を行うために必要な体制等 (勤務時間、人員体制、協力体制等)
C 病院長・大学WG	第1回: 7月下旬	② 病院長 ③ 大学	・各病院が安全な分娩に必要な体制を整えることができるかの検討 ・今後の分娩(婦人科)需要に応じた、産科(婦人科)の派遣方針、病院に求める事項等

【産科医等の確保】

- ・若手をリクルートしているが難しい
- ・産科の中堅の指導医、新生児科医が非常に少ない。養成が必要
- ・県による支援をお願いしたい
(若手医師のリクルートや奨学金、専門医取得研修等への財政的支援)

【産科医療に必要な体制】

- ・働き方改革に対応するには、産婦人科医は最低5名(産科のみなら3名)必要
- ・働き方改革に対応した医師の派遣体制を検討する必要がある
- ・妊産婦の緊急時の受入には、産科医だけでなく、小児科医(新生児科医)、麻酔科医など他科との連携が不可欠
- ・産科医だけでなく、助産師も不足している

【能登北部の体制強化】

- ・能登地区への産科医派遣は、両大学が協力して行う必要がある
- ・能登に新たな分娩施設を整備するには時間がかかるため、まずは既に産科医のいる輪島病院に複数の産科医を派遣し、能登北部の産科医療を立て直してはどうか
- ・輪島病院への常勤医師の複数配置、特定の医師による週1回の外来診療ができるよう、派遣をお願いしたい
- ・できるだけ近いところで安心して出産できることが望ましい
- ・助産師による妊婦検診の充実など、もっと助産師を活用してはどうか
- ・出産だけでなく、がん検診の充実も含め、女性の健康に配慮した若い女性が住みやすい街を作ることが必要

石川県の産婦人科医師数や勤務環境の現状

資料2-1

- 全国の分娩取扱病院を対象に実施された『産婦人科勤務医の待遇改善と女性医師の就労環境に関するアンケート』（公益社団法人 日本産婦人科医会）によると、全国的には分娩取扱病院数は減少し、医師数や分娩数は集約（医師数自体も増加）したとされている。
- 本県は**常勤医師2名以下の病院が多い**など、**全国と比較して集約が進んでいない**ことから、**1病院あたり分娩数・医師数や、医師1名あたり分娩数が比較的少ない**にも関わらず、**勤務環境は全国平均を若干上回る勤務時間や当直時間**となっているのではないかと考えられる。

	全国		石川県
	H19	R3	R4
分娩数	354,370件	339,545件	2,616件
分娩取扱病院数	1,281病院 (回答794病院)	985病院 (回答715病院)	15病院
うち常勤医師2名以下の病院	278病院・32.6%(H20)	96病院・13.4%	8病院・ 53% <small>(分娩取扱常勤医師2人以下は9病院・60%)</small>
1病院あたり分娩数	446件	475件	174件
産婦人科常勤医師数	3,601人	5,308人	61人(うち分娩取扱59人)
1病院あたり常勤医師数	4.5人	7.4人	4.1人(3.9人)
常勤医師1人あたり分娩数	98件	64件	43件(44.3件)
勤務環境	勤務時間	52.1h/週(H20)	46.9h/週(R3)
	当直回数	6.3回/月	6.4回/月(R3)

※分娩取扱病院数を除き、全国の数値は、回答のあった施設(H19:794施設、R3:715施設)分のみ集計したもの

(非公開資料)

分娩を取り扱っている病院の産婦人科医師数と分娩数

資料2-3

- 本県では15病院で分娩を取り扱っており、61人の常勤産婦人科医師(うち分娩取扱59人)が勤務している。
- 8病院において常勤産婦人科医師数が2人以下、9病院において常勤の分娩取扱産婦人科医師数が2人以下となっている。
- 分娩件数は県全体で2,616件であり、1病院あたり174件、常勤医師1人あたり44件となっている。

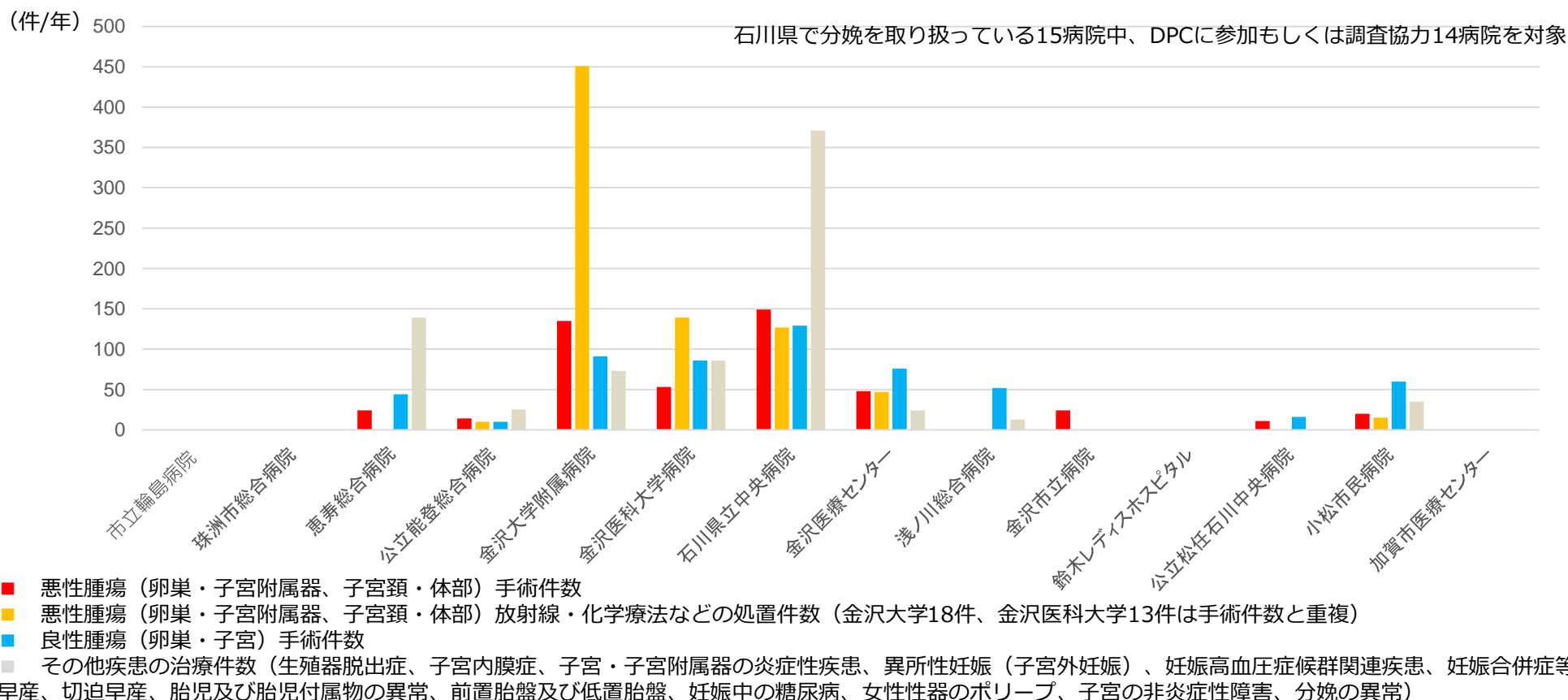
	産婦人科医師数(人)		産婦人科のうち分娩を取り扱う医師(人)		分娩数(件)	医師1人あたりの分娩数(件)
	常勤	非常勤	常勤	非常勤		
市立輪島病院	1	0.1	1	0.1	96	96.0
珠洲市総合病院	0	0.1	0	0	10	
恵寿総合病院	4	0	4	0	202	50.5
公立能登総合病院	1	0.5	1	0	132	132.0
金沢大学附属病院	16	7.2	16	7.2	299	18.7
金沢医科大学病院	8	1	8	0.7	150	18.8
石川県立中央病院	13	0	13	0	464	35.7
金沢医療センター	2	0.9	2	0.9	83	41.5
浅ノ川総合病院	2	0.3	2	0.1	60	30.0
金沢市立病院	1	0	1	0	30	30.0
鈴木レディスホスピタル	3	0.1	1	0.1	281	281.0
公立松任石川中央病院	2	0.3	2	0	12	6.0
恵愛会松南病院	2	0.7	2	0	631	325.5
小松市民病院	3	0.1	3	0	40	13.3
加賀市医療センター	3	0	3	0	126	42.0
石川県(合計)・15病院	61		59		2,616 (平均174件)	44.3

(出典) 石川県地域医療推進室調べ(医師数R4.4.1 分娩数R3年度)

※県内の病院に勤務する産婦人科医は合計64名であり、上表以外にも金沢赤十字病院、金沢聖霊総合病院、芳珠記念病院に分娩を取扱わない産婦人科医が合計3人いる

産婦人科疾患に対する治療内容別入院患者数

- 『令和2年度 DPC導入の影響評価に関する調査』(厚生労働省)には、各病院での症例数が公表されている。
- 石川県内の病院の症例数を、悪性腫瘍の手術件数(■)、放射線・化学療法などの処置(■)、良性腫瘍手術件数(■)、その他の治療件数(■)別に示した。
- 症例数に関しては、県立中央病院、金沢大学、金沢医科大学、恵寿総合病院、金沢医療センター、小松市民病院の順が多かった。
- 疾患に関しては、
 - ・ 県立中央病院は産科に関する治療が多く、金沢大学は悪性腫瘍に対する放射線・化学療法などの処置が多かった。
 - ・ また、金沢医療センター、浅ノ川総合病院、小松市民病院は良性腫瘍の手術が多かった。
- 各病院の特徴(強み)や人員体制にも鑑み、病院の機能分化や連携体制を検討してはどうか。



1. 産科医の現状について(診療実績・勤務環境)

- ・病院間で診療実績(分娩・婦人科手術等)、労働環境(勤務時間、インターバル等)にばらつき※があることから、各病院の**現状認識**と**希望する勤務環境**について意見を伺いたい

2. 安全・安心な分娩について

- ・中小規模病院(年間分娩数200件以下、産婦人科常勤医2人以下)やへき地において**安全な分娩を行うために必要な体制**について意見を伺いたい(例:産科人員数、小児科、麻酔科との協力体制、必要な医療機器など)

3. 各病院の機能分化・連携について

- ・各病院の特徴(強み)や人員体制も鑑み、**各病院の機能分化や連携**について意見を伺いたい